明治三十一年九月十八日印刷
明治三十一年九月二十日發行

婦人衛生雜誌

第百六號

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第百六號
目次

講演

◉インフルエンザに就きて　醫學士　高田耕安君

◉產婦の攝生

◉異狀なき妊婦の攝生法

◉妊娠の醫治

衛生叢談

◉犬に咬まれたるときの所置◉恐水病◉看病法◉諸種の遺傳病につきて◉體質及び體格に付きて◉男女兩性を來す特別の病氣に付きて◉年齢と疾病との關係◉職業習慣風俗により生ずる疾病の痰合◉通俗衛生◉各種傳染病赤痢◉食物消化時間◉助產婦經驗談◉肺結核◉小兒の聲◉果實と僂麻質斯其他の諸病

大日本婦人衛生雜誌
第百五號
目次

講演

◉地と水の清潔に就て　醫學博士　中濱東一郎君

◉精神病者の取扱に就て　醫學博士　片山國嘉君

◉體育（休育會所紀承前）　ヂハイメル、メヂチナールラート、プロフェッソル、ドクトル、エ、ベルツ君述　文部省學校衛生主事　醫學士　三島通良君譯述

衛生叢談

◉ロイマチスムにつきて◉疾病の原因につきて◉凍死者の扱ひ方◉眼中の異物を取る法◉異物を飲みたるときの注意◉「エヒイコックス」につきて◉人躰に宿る絛虫◉結婚につきて◉躰溫につきて◉躰溫計用法◉水蛭使用法◉肉食と菜食◉肥豚の滋養◉食養法に依る体量◉赤痢病◉盛夏中牛肉を貯藏する法◉胃を截り去りし婦人◉端座の害◉水齒磨製造法◉廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百六號
（明治三十一年九月二十日發行）

講演

●インフルエンザに就て

醫學士　高田耕安君　演説

私はインフルエンザの事を今日御話いたします抑々もインフルエンザとは何う云ふ意味の文字であるかと申しますれば、干渉、關係など云ふ言葉より來り大氣の關係に由つて發すると云ふ意味で有らうと云ふ説と、單にはやりやまひ即ち流行病と云ふ意味であると云ふ説と二つ有ります、此病に此名稱を用ひました初めは、凡そ十七世紀の比でありまして英吉利の或る學者がとなへ始めたので有ります、此病氣は古から在つたので有りませうが、確かに在つたと云ふことの解つてをるのは十六世紀の初めよりで有ります、書物には九世紀比より似よりの病氣の記載が有りますけれども、本病であると、しかと解るのは十世紀以來で有ります其後大流行を極めました事凡そ百回其外に小流行か凡そ八十回あつたと申してをる學者が御座います、それから明治二十二三年比に於きましては凡そ六十年間程殆ど其迹を絕ちたる有樣で世間に忘れられて有りました、ソレで其時分にはインフルエンザとはいかなる病ひであるかと云ふことは醫師でさへも知らぬ者の多かつた事は日本のみでありません獨逸の書物にも斯う書いて有ります明治二十二三年比の大流行は皆樣も御記臆の事でそれからとき〳〵小流行を爲し、又此比に

於ても少し宛ある樣で有りますが、此病氣は熱帶でも、温帶でも寒帶でも、又は東半球の土地でも西半球の國々でも北方でも南方でも何處にも蔓延したことのあるもので有ります又時候、男女、老若等に拘はらず此病氣に襲はるゝものであります。此病の流行は非常に劇しく、其傳播することが非常に迅かで有りまして、遠く海を隔てゝ居つても傳播を來したる例は澤山に有ります、或は遠洋は航行しつゝあるものにも、殆ど陸上の者と同時に發したと云ふやうな例も有ります、或時凡そ二日間の中に、獨逸の伯林から佛蘭西巴里まで蔓延したと云ふ話も有ります、而して其人を冒すこと多數で有りまして、或時などは佛蘭西の巴里に住める者悉くインフルエンザに罹つたと云ふとも有つたさうです、其他住民の半或は四分の三罹つたと云ふやうな事も尠なからむので有ります、此疾患の大流行を爲しました時には、今申す如く暫時に非常に多數の人間を冒しますに因つて、一家の者悉く此病に罹り遽かに手の足りなくなり看病者も足らず、醫師も足らなくなると云ふ事は明治二十三年の大流行に於て皆樣も御記臆になつて居ることで有りませう、それで此病氣は如何なる病氣であるか而して其病氣を防ぐには如何にすれば宜いかと云ふことの大要を御承知になつて居られましたならば、他日或は用を爲すことも有りませうと思ひます

此病氣は一つの急性傳染病で有りまして、其病毒は爰に顯微鏡に懸けてあります處のインフルエンザバチルスと申すもので有ります、御存知の通りバチルスには窒扶斯バチルス、虎列剌バチルス、

結核バチルス等種々有りまして、此バチルスなるものが諸种の病氣の原因を爲して居るが、矢張此インフルエンザも、一つのバチルスに因つて發するので、人より人に直ちに傳染する所謂觸接傳染病であると云ふ説が多く行はれて居ります、明治二十五年に伯林のパイフェルと云ふ人が患者の咯痰より此黴菌を發見して、爾來其確實なることを認られて有ります、其他カノンといふ人か患者の血液中に、同樣の黴菌を發見したと云ふことで有ります、此細菌或は其芽胞が空氣に浮游し呼吸器等より身躰に達して本病を發するので有らうと云ふことで御座います。

此病氣に罹りました證據即ち容態は一樣ならむで有りますが、併し先づ大別して三種類となします即ち加答兒性、腸胃性、神經性との三種で有ります、加答兒性と云ふのは吸呼器に加答兒を發するので、鼻加答兒、咽喉加答兒、氣管支加答兒、重きは肺炎殊に加答兒性肺炎を發するので有ります、鼻、咽喉、氣管支等の加答兒症狀は申す迄もなく御存知で有りませうから申上げませぬ、其他腸胃性とは腸胃を主に冒すのを申しまして或は吐き或は瀉し或は腹痛を發することが有ります、又神經性と云ふは非常に身躰が弱りまして又頭痛、眩暈著しく又脊筋、腰、手足等の筋肉、關節々々等が強く痛むさう云ふ樣な神經症狀の著しきを神經症と申します、併し一人の病者で二種類三種類を合併することが有ります、其他何方とも着かぬ中間のものも有ります斯くの如くインフルエンザは一樣ならむので有りますが大抵皆熱發いたします而して此熱の持續は凡そ半週乃至一週間で二週

インフルエンザに就て

間續くのは稀で有ります、只續發病でもあると、例之はインフルエンザに罹ッて居るうち、肺炎を發する等の事で永く煩ふものは有りますが、通常は四五日間位ゐで熱の冷めるものが多いので有り升、前申す通り此病の發するときには通常熱發して參りますが、其前惡寒を覺ね稀には戰慄を發するものも有ります、且つ頭痛眩暈等の症狀を發するので有ります、此病氣に罹りました所のものは割合に死ぬことは少ないので御座います、百人の中二三人位死ぬことも有りますが、一般から云ふと死ぬことは少ない、その死するは如何なる者に在るかと云ひますれば、老人或は平素に持病を有するもの、例之ば肺病或は心臟病等の病氣を有するものがインフルエンザに罹ると重いので有ります、其他一体に身躰の衰弱して居るものに死亡者が多いので有ります、又平素神經病を有するものは、強き神經痛を惹起すとか、凡て神經症狀が非常に激しくなる又老人衰弱者等がインフルエンザの爲に殪れるのは、肺炎の爲めで有るとが最も多い其肺炎はインフルエンザ菌の爲めに發するかインフルエンザを發して居ると、ソコで肺炎を更に惹起すかで有ります、此二つの中どちらが多いかと云ふに、インフルエンザを發して居る處に更に肺炎を惹起すと云ふ方が多い、又往々中耳炎等を合發するものも有ります。

ソレから治療法に移りますが、先づ豫防に如くものは有りませぬ、殊に身体の衰弱して居るもの、又肺病を有するもの心臟病を有する者等はインフルエンザ流行時には成るべく外出せずにある、若し已むを得ずして外出するならば天氣晴朗に

風の强く吹かぬ日を撰ぶが宜い、此疾患を受けまするものは外出した時が多いので有ります、室内にをッて是れを發すると云ふことは是れまでの經驗上少ないであります、若し之を發した上は必ず就褥しなければならない、縦ひ輕いので有りましても油斷してはなりませぬ、インフルエンザも輕いので有りますと著しく熱の昇るやうなことは有りませぬ、或は全く無いのも有ります、併し若しソレが攝生法の充分に能く屆かぬ場合には重症にうつり往くもので有りますソレ故に必ず就褥して熱度は必ず毎日三四度位量り試むるが宜い食物は今申す通り腸胃性の症狀を發することが有りますから、三十九度前后の熱が有りますときは極く軟かなるものを用ゐて、殊に牛乳生鷄卵等の流動性滋養物に如くものは有りませぬ幸にして熱が無事に經過して快復期に向ひましても決して輕々しく起出でてはなりませぬ、尚はしばらく就褥して居らなければなりませぬ、インフルエンザには再發と云ふことが數々有りまして、モウ癒ッたと思ッて油斷をすると復更に前より重いのを發することが有ります、茲に今年のインフルエンザ患者の表を寫して參りましたが、是れに就て御覽になると再發したのが二人有ります、安田と云ふ患者は本年二月三日に發病しまして加答兒性の症狀七日に下熱しました、九日目に來訪者と對話をしました處が、遽かに熱が出て八度九分に昇りました翌日は又冷めて其後七日間無熱で有りました、ソレで翌日より出勤する心算の處復八日目に熱が出て七日間更に熱を發しました、今一人は本月十一日に發病して矢張り加答兒性インフルエンザで

有りますが、六日にして平温に復しました其後平温なること六日、更に七日目に再發して二十三、二十四の兩日間三十八度半位の熱で有りました、ソレから三日目に漸く三十七度六分となりました斯くの如くインフルエンザは一旦癒ッても更に再發する例が少なからぬので有りますソレ故に一週間發熱すれば縱令下熱しましても一週間或は一週半位ゐは籠ッて居るのが必要で有ります、今日は演說は是れで御免を蒙ふります

(インフルエンザの熱度表二三葉幷にインフルエンザバチルスを顯微鏡に懸けて示さる)

◎產婦の攝生

妊娠は人類繁殖の本源なり而して造物主の機關なり故に一廻妊娠してことなりたる病苦なく月滿て安產しなみの日數をへて常の身體に復するは素と是れ生理的の機能と云ふて婦人と生れて子を產は自然の理なれは醫療など致に及ばす又常にすこやかなる婦人は素とよりなみの人の養生にて充分なりと思はる半解人の謬にてさにあらす何となれは妊娠すれは身躰腹內は云ふまでもなく殊に生殖器と云ふて凡て子のでき生長する腹部は大なる變りの起りてそれに從て平常身輕のおりからとは事變りて種々の齟齬を生し平日は思もよらぬ食物抔を好むも此故なればなり如斯き多くの變化を起すをりなれば平常の時ならは少しも害に爲らさる事なても姙身の中は大なる害を引起し又其害の其身はかりの事のみにてなく躰內に有る胎兒も共に亦其害に罹るへし夫故に必らすや別に姙娠中の養生法のあるへき事ならすやしかのみならす懷姙の婦人

は胎内の胎兒を大せつに保ち護る事は是また緊要なれば良き醫者の定めたる養生法に從ひて嚴しく守らざるへからす若もひとたひ養生法を過失すれは其害の目前に來るのみならす臨産の時に別に苦難を受けて産後の日立もあしく猶も事によれは終身痊る事なき病患を引受る事あれはなり實に懼るへき事ならすや今茲に其の養生法を撰み三ッに區別して第一を妊娠中の養生法。第二を臨産時の攝生法。第三を産褥中の養生法として一々其の法を指授す心あらん者は精密に理解すへし其論左の如し

◉異狀なき妊婦の攝生法

一。婦人の妊娠たるはあなから疾病にあらすと雖とも神經質と成るよりして平日の習慣を失ひ其爲に病患を醸成する事間々あるを以て良く注意を加へ平常の飲食衣服起臥は云ふまてもなく常に從事する職業等は身躰に害ある勞働なとを除くの外は變換ざるを良とす

二。妊婦はすへて喜、怒、哀、樂、の事につけて過度に心に感するは身の爲に害の多けれは毎に心を靜にし務て何事も心に掛ぬこそよし例令は不意の驚き哀なる話説。戲場興行場を見聞し病人を訪ひ出産の家に行くなとは尤もよからぬ事なり又産難の話など聞て懼怖る勿れ譬ひ難産に罹るとも早く治療を受れは母の生命に障害有る事は絶てなきものなり

三。居間や夜具は務て清潔にし冬は溫暖なるを良とす然しなから夏冬とも一室を密閉るは室内の空氣を不潔になすゆへに日中は屢々窓障子を開き新鮮き空氣を通すへし又群集なる場所すなはち説法

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

塲興行塲の如きは空氣不潔なる故に久しく居るへからず又殊に夜具は安眠の爲に緊要の物具なれは成たけ輕く柔かなるを用ゆへし

四。身躰適宜の運動は妊婦にとりて大事の養生法なれは春秋の好き天氣には野山の花紅葉を訪ね夏は林間の清陰を遊歩し冬は南圃の和日を追ふ閑靜の地に放意運動するは誠の保養の道ならすや是にもとりて一室に欝氣しあるは朝寢しあるは夜具の内にありて病を求め血液變調症。精神變調症。消化不良症。不眠病など云ふ色々の病を引起すは愚ならずやたりとて運動に過て身躰を勞らせ譬は嶮しき山坂を越へ汽車汽船の長旅を爲し人力車の疾驅或は舞踏或は重量を運般など皆あし丶但し平常に慣たる職業は少し勞動の事なりとも適宜にせは害なしとす都て腹部を壓ぬ樣に注意すべし

五。四季おり〳〵の衣服は常に着慣れたるものと垢つかぬ清潔なる物を用ゆへし冬は温に着服し夏とてもほどよく着服ありたし我邦の服は廣やかにして身に附かすまして腰より下は身にしたしまた殊に妊娠すれは腹部擴張するを以て下より冷寒下りて甚あし丶故に暖かなる毛織の股引か又は毛織の腰卷をなし紐はゆるやかに結び下じめは平くけを用ゆ綳帶は初産には總して害ある物なれば用いざるを良とす數度の妊娠にて腹部緩にして下垂するものは綳帶を用ゆるも害なしとす就中巾廣き布を以て肩よりつり懸けて腹のあたりを卷くを最も良とす

六。垢穢つきて物くさきは平常の養生法にも丶とるをまして常には下り物なき婦人も妊娠してはま丶少しの事は有る者なれは其爲病を醸し易ければ

身を淸潔に爲す事を務め屢々湯浴を爲し又下も湯は時々のこるくまなく洗ひ淸め腰のあたりも同しく洗ふへし左れとも熱き湯は胎兒に害あれは程よき湯を用ひ長く浴するも亦惡し毎日一回ツヽ腰湯をなすも良すと其法は盥に湯を入れ中に食鹽たいの一握を入る或は檞皮（藥種の名）四半斤を煎しこして一回の湯に和し或は干葉湯にても良とす然る後に腰の周圍を毛布樣の物にて纒ひ十五分時（烟草十服計の間）蒸て後に乾きたる布にて能く拭ひて温り居るをよしとす

七。妊娠のおりからは食物は殊更に平常とは變る者にてあらぬ物を食し甚しきは食物にもあらぬ壁土線香なとを嗜む者あり是等は皆さしむき病の爲なれは我かまヽと思ひて止まるへし抑々我か身と胎内の小兒と二人りの身を養ふ事なれは常よりは滋養多き物を食すへきなりされは滋養の物とは牛肉牛乳鳥肉鮮魚鷄卵等にて適宜に少量に度々に食すへし一度に多食せは吐氣を催すの患ひあり野菜も好みなれは食すへしなれとも野菜は總じて消化の惡しき者なれは小量に喰ふへし然らされは流飮を起し又は腹中に風氣を醸し易けれはなり凡そ食して害なき者は菜人參大根葱なとなり其他辛きもの酸きもの等は多分に食するは甚あしヽ成べくは平日慣たる食物を用ひなを滋味を添て喰ふへし殊に寢前に多食するは甚忌む事なり

八。飮み物も亦食事と同樣なれは淸き水を撰みて用ゆへし中には極熱の食物を好む人あれとも適宜の温を用ゆへし濃き煎茶又抹茶は胃を傷むる者なれはあしヽ酒は平素好む婦人は少許を用ゆるはあまり害はなけれとも妄に大酒しては甚あしヽ又

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

平常好まぬ者も妊娠して急に酒好となる事あり是は例のあらぬ食好にてよからぬ事なり愼みて用ゆるなかれ。殊更追々臨月に近つくに從ひ平日好きなる者も愼み用ゆへからす其理由は酒などの如き物は胎兒の成長を促 せばおのずと其形ちおふきくなりて臨產の時困難の基本となれはなり

九。大便はなるたけ一日乃至二日目にはありたき者なれとも兎角妊娠の中は多くは泌結するは常なれは宜しく注意し斯る時は食事は前章に述たる善良の飲食を定刻に程よく食し運動も前に云へる如く適宜の場所を時刻と道のりを定め步行し每朝空腹の際一碗の水又は牛乳を一合ほと飲み或はよく熟したる果實を程よく食すれは大便の通利を得る者なり決して便通を欲して賣藥を服する事なかれ何となれは中には烈しき下劑などありて其爲に墮胎し或は身躰衰弱して母子の命に拘る事あれは必す其度々に醫師の指圖を請て其いゝつけに從ふへし

十。小便は妊娠すれは其度數を增し殊には其四ヶ月目と臨月とは殊更に繁數の小便を催すに苦む者なれと是によりて堪ゆるは甚た惡し故に尿意あれば其量少なくとも必す利通すべし若し辨期に於て意の如く利尿し難き時は兩手にて腹を抱へ上げ胎兒を上方に揚くれは快く通するなり

十一。房事は俗說にも妊身中は愼むべしとの事なるに况してや流產の癖ある婦人は愼みの上にも戒めよかし其內流產の癖なき人は第九ヶ月の頃までは適々は宜しとは云へ閨房の內にて強く身を屈折め腹部を壓すなどは中にもあしき事なれ是等をよろしく考ふべし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

十二。乳房は小兒を養育するの第一緊要のものなれば自然と妊身の中より其所に勢力を備へて其勢力のあまりて焮衝を起し易きものなればおしつけ打たゝき等の痛みを起す事は心懸けて出合ぬ様になすへし

以上記するところの條々を守り怠らされは流產難產等の不幸なきのみならず小兒にも亦健全に成長すべし

◎妊娠中の醫治

十三。妊娠中他病を發せるときは速に醫師の治療を求むべし若し之れを忽にせば母兒共に非命の死を招くとあり凡て俗人療治禁厭等を賴むと勿れ決て効驗なきのみならず却て大害あるものなり故に妄に信ずべからず

十四。妊娠中屢嘔吐に苦むことあり殊に第二三ケ月の間に多し劇しきものは之れが爲に飮食すると能はずして身體羸瘦し終に斃るゝに至る故に速に醫療を受くべし

又此嘔氣あるも決して斷食するものに及ばす一日數回に小量づゝ飮食するを良とす若し早朝起床の時に嘔氣を催すものは蓐中に在る儘小量の飮食なして靜かに臥し居は多くは自然に治まるものなり

十五。姙婦頭痛に惱むことあるものなれば之れを癒には冷水又は氷を嚢に入れて（嚢は牛肉店等にあり）頭を冷し且つ足部を温湯或は温石にて能く温むべし若し効なければ醫療を乞ふべし

十六。腰痛又は下腹下肢等に痛を發せるときは腰湯、温石、湯たんぽ等を用ひて暖むるを良とす然れども効能薄きもの故成可くは堪ゆべし若し甚しく痛む時は醫師を招くべし

十七。歯痛も亦た起ること往々あり此時には芥子又は温飩粉を煉りて紙又は布片に塗りて痛む側の頬に貼り温に爲すべし尚是にて治せざれは治療を乞ふべし

十八。妊婦は動すれば眩暈を起し易く時として卒倒ることあり故に起居擧動に注意して成る可く安靜なるべし

十九。心悸を起すことあれども大概は苦悶を覺ふるとなし然れども劇しきときは胸部を冷布又氷嚢にて冷すべし若し癒ざれは醫治を受くべし

二十。妊娠の月重るに順て下肢に浮腫を起すものなり其輕きものは殊更治療するに及ばざれども重きものは下紐腰帯等を緩め莫大の股引を用ゆべし又永く佇立すべからず寝るときは仰臥して足部を高くすれは自然浮腫の増こと少し然れども下腹足部も外陰部も共に浮腫を起して歩行を妨ぐるものは忽せにすべからず此の如き病は下腹の大さ尋常妊娠よりも大なるものにありて第九月目に多く起すものなれども第十月目（臨月なり）に至れば此の浮腫大に減するものなり稀には下肢に靜脈努張症を起して瘙を覺ね之を掻けば出血して止まり難きが故に決して掻べからず若し甚しきものは醫師を頼むべし又全身に浮腫を起すことあるは尚必ず他の病に因るものなり速に醫療を受くべし

廿一。大小便の通じ惡敷時の治療は前に述べたり然れども妊娠の初期又は滿期に起る治療の効なければ醫治を乞ふべし

廿二。精神の變常も往々起るものなれども其輕きものは治療を受るに及ばず唯だ甚しく鬱閉するものなれば醫師に依るべし

廿三。全身の皮膚に疹、膿胞等を生じて甚しく化膿するもの又は癤瘇、癰等を發せば忽にせずして醫療を受くべし

廿四。唾液の分泌甚しき時は明礬を凡そ二百倍の水に溶解して（例へは明礬一匁を凡そ四合の水に溶す）一日に數回づゝ含嗽すべし之にて治らざれば醫師を頼むべし

廿五。白帶下の輕き者は一日二度位づゝ腰湯を用ひ又は膣内を温湯にて洗ひ清潔に爲すを良しとす若し重き者は多くは淋病より起るものなれば速に醫療を受くべし忽にする時は分娩時に至り嬰兒の眼中に此膿汁入りて重き眼病を惹起し遂に盲目となるもの多し嬰兒の膿眼と名くるものにして世上盲目者の半數は之より起ると云ふべき程恐しきものなり故に白帶下の多量なるもの殊に夫に淋病あるものは注意して治療を怠るべからず又此病あるものは分娩時に至り必ず忘るゝことなく其由を醫師又は產婆に告げて膣内を清潔に洗ふべし

廿六。乳房腫脹して疼痛甚しきときは新しき綿を充て繃帶（白木綿又フランチルの切片）を乳房の動搖せざる樣に壓定すべし

廿七。腹部の周圍過大なるものは双胎品胎なるも又は分娩に臨み陣痛微弱症を起すことあるもの故に豫て產科醫の診察を受くべし通常の娠妊にて第七八月目には腹圍大約曲尺三尺一寸、第九ヶ月には三尺二寸第十ヶ月には三尺二寸五分となる故に之を比較して大小を知るべし

廿八。妊娠中陰門より下血するものは流產の前兆又は前置胎盤（胞起の子宮にあるもの）にして初妊なれは分娩數時間前に起り數々妊める婦人なれば第七八ヶ月頃より起るあり放置する時は大患となるを以て速

に産科醫を招くべし
又然しながら妊娠中に毎月經水を見るもの稀にあれども是又診察に依りて判定すべし

廿九。婦人の性質に因りて墮胎の癖ありて完全くなる嬰兒を擧げ難き者あり是れは梅毒ある婦人に多く起るものなれば本人は勿論其父母に梅毒あれば遺傳することあるもの故に此疑あれば決して治療を怠るべからず若し怠るときは假令幸ひにして尋常の月を經て分娩するとも畸形の子を生むか又は嬰兒産後に梅毒症を發し育弱く多くは死する者なり懼るべし

三十。平常陰部に腫物あるものは難産に罹る事多きものなれ治療を忽せにすべからず故に妊娠前なれば速かに手術を受くべし併し妊娠中なれば流産又は早産を招く事あるが爲め手術の行はれざるものなり

卅一。妊娠第三四ヶ月目に至り腰部に劇痛を發し大小便全く閉止し甚しきは吐糞病（大便を吐出するの症）を起すものあり此の如きものは猶豫せず速に治法を乞ふべし

卅二。妊娠中突然卒倒して人事不省となり或は痙攣を發して癲癇の如き症を起すことあり是れは臨月近づきて起ること多し此病は暫時にして平常に復するが如く見ゆるものなれども全治せるにあらずして必ず再發するが故に之が爲に終に母兒共に死を致す事あり若し一回此症を發せば決して醫療を怠るべからず

衛生叢談

◉犬に咬まれたるときの所置

雖愚生

犬の人を咬みたるときは若し出血するとあるも直に止血をなすべからず却て暫時出血せしむるを宜しとす若し出血少なきときは微温湯に浸したる清潔なる布片を以て傷口を洗滌すべし然るときは尚多少の出血を促すものなり之れ出血と共に体内に入りたる有毒なる物質を洗ひ出さんが爲なり又人を咬みたる犬は怒に委せ直に撲殺すべからず先つ該犬の恐水病に罹りをるや否やを判定すべし若し狂犬なるときは恐るへき疾患を起すものなるが故に直に醫士の治療を受け決して等閑に附すべからざるなり

◉恐水病

此疾病は初め犬に發するものにして此疾病に罹れる犬を狂犬と云ふ狂犬に咬まるゝときは恐水病と稱する恐るべき疾病を起す者なり故に犬を飼ふ人は此疾病の如何なるものなるやを知り豫防衛生に意を用ゆ可きなり

本病の犬に發するときは多くは躁暴狂亂をなし或は又平素活潑なる犬忽に沈鬱となることあり然れとも多くは不安の狀を呈し其性質變じて逍遥を好み且つ日常の食物を顧せず却て食す可からざる木材藁の如き物を食し二三日にして性狀増々不安となり頻りに逃走を試み繩を切り市中を徘徊し歸るとを知らず老幼男女を問はず凡て己の面前に來る人を咬み又木片瓦石の如き者を食すると愈々甚だしく吠聲は通常の如く短かくして且つ活潑ならず却て重くして長く一点を注視し微聲を發し忽ち高く飛躍し躁暴の行爲をなし顏貌恰も怒るが如く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又食物を嚥下すると困難なり數日の後疾病愈々進み躁暴なりし狂犬は却て委弱となり步行蹣跚にして尾を垂れ其狀恰も疲勞せるか如く聲音嗄嘶し遂に死に至るものなり故に犬をかふ人は平素其性狀を察し以て一家公衆の衛生に注意すべき者なり

◉看病法

重症なる患者を看病するのは誠に困難なる者でありまして種々雜多なる注意が必要であります若し誤りたることを致したるときは追々輕快に傾きたる病氣も立どころに增長して不幸なる場合では遂に死に致る者であります然しながら大抵の重症患者は精神の狀体は通常の人と異り或は眠を嗜む者もあり又は全く人事を辨へぬ者もあります又斯くの如く精神狀体の變化甚しからぬ者でも多くは鬱憂で言語少なき者であります故に看病人は醫士の命令通りの所置をなし又患者の樣躰を充分に看察して醫士に告げ知らせることは却て容易きものであります然しながら慢性の病氣に罹り居る人又は恢復期の患者を看病するのは却て困難なることがある者で患者の性質は人々により同一でありませぬが然し患者の心を用ひ意を注ぐことは只已れの身体と已れの病氣のとのみです患者若し看病人の懇篤なる所置を喜び之を信用する樣になれば患者は日々種々なる問をなし看病人の答を得て滿足して心静に攝養を勤むる者でございます若し看病人の言語動作等粗暴にて赤心を以て患者を取扱はぬときは種々に心を痛むるも一人の同情を表する人なく心神は堪ゑず平かならず看病人の一擧一動皆意に滿つることなく遂には失望となり心にもなき行爲をなし自から病勢を強むることがあります故に看病と申

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す事は随分難義なるとで病人は誠に憐むべきものもので其苦痛を救はんと思ふ一片の實意なければならぬ者で只表面上の義理又は衣食の料を得んと思ふ樣なる商賣氣では決して出來ぬとであります又左に看病に必要なるとを列記すれば

(一)看病人は患者を救護せんと思ふ赤心なかるべからず患者の欲することは治療に防害とならざる以上は務めて其意に從ひ懇篤實意を旨とし病室に在りては喜怒苦樂を顔色に現さゝらんとを要す

(二)患者の衣服寢具は元より看病人の衣服も成るべく白色又は薄良の物を用ゆべし疼痰便尿の如き者は傳染毒を含む者にて濃き色の衣服なれば知らず知らずに之に附着しをるとあるも容易に發見されがたき爲病症家内に傳播するの恐あるを以てなり

(三)醫者の注意の如く患者の体温を測り其温度と測りたる時間を記し置き又大便の度數と其下痢なるや否や小便の度數及び其量或は時に痙攣をなすが如き患者なれば其痙攣の際能く注意して其狀躰を見置き醫士に報告すべし又患者の精神の狀躰は常の如きや或は譫語を發するやを注意すべし

(四)藥餌は夏期に在りては腐敗せざる樣注意し内用の時間は醫士の命ずるが如くし又水藥の如きは其温度により患者に不快の感を起さしむるとあり胃病にて時に嘔氣ある者に微温なる水藥を飲ましむるときは忽ち吐出するとあり故に斯の如き患者には成るべく寒冷となして與ふへし精神常の如くならず眠を嗜むが如き患者或は小兒又

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

は狂人に服藥せしむるは最も注意を要するものにて通常人の如く藥液を口中に入るゝも自ら飲下するを欲せざるときは藥液氣道に入り肺臟の病疾を起すことあり故に斯の如き患者は仰臥しをる時藥液を口中に入るゝべからず或種の藥品は飲用の時間を誤るときは藥力を失ひ中毒をなすことあり多の下劑は胃中に食物のなきとき即食前二時間を宜しとす然らざるときは充分に効を現すこと少なし又「クレヲソート」の如きは食后胃中に食物のある間に内服すれば胃を害ふこと少なし又藥品により一種の食物を同時に飲用するを許さゞることありたとへば鐵劑を内服するときは暫く茶を飲むべからず何となれば鉄劑は茶に遇ふときは其効力を失ふが故なり

(五)患者の食物は最も注意を要するものにして食物の不適當なるものを與へたるが爲に治すべき疾病も治に趣くことなく不幸なる場合にては遂に死を致すことあり「腸ちふす」は元來腸の内面に數多の潰腸を生ずるものなるが故に成べくは流動性の食物即ち「をも湯」牛乳の如きものゝみを與へ決して形をなせる食物を與ふべからず何となれば形をなせる食物は腸内面の潰物を刺戟して一度び快方に向ひたる病勢頓に增惡して熱度上騰し病疾の再發を促がすが如きことあり凡て急性の熱病、胃痛、腹膜炎、下痢、赤痢の如き病疾は又「腸チフス」の如く流動なる食物を與ふべし慢性の病疾即ち肺結核、肋膜炎の如き者にては形ある食物を禁ずるの必用なしと雖も病勢慢性にて數月又は數年を經ざれば全愈又は輕快するとなきを以て患者の身躰は自然疲勞衰弱し

之が爲に藥石も又其效著しからず之を以て斯くの如き慢性の病に惱める人は日常最も消化し易くして滋養分を多く含める食物を撰み身体の營養を宜しくし以て藥効を助くべし消化し易き滋養品は其種類甚だ多く又同一なる食物にても調理の方法により消化の工合ひを異にするものなり獸肉、鳥肉の脂肪少なきもの又刺身の如きは最も消化し易きものとす雞卵は半熟を宜しとす少しの柔らかき野菜も又營養上必用なるものなり

（六）患者を訪問するは患者にとりても誠に喜ぶべきことなり然れども其患者の様躰により注意すべきことあり若病症重くして僅かの精神上の感動も病症の成行きに影響をなすが如きときは只名刺を通ずるに止むべし然れども間々已れの好意を示めし表さんが爲押して面會を求むる人あり之誠に思はざるの甚だしきものなり又斯くの如き重症ならざる病人なりと雖も成るべく言語動作を靜にし患者の意を受けて談話し決して放言高語等なすべからず又病室に長坐することなり却て時々短時間の面會をなすを宜しとす又患者と自分との位置、關係、事情等により好意上の面會却て患者に大なる刺戟を與ふることあり之れ又心すべきことなり

（七）病室内に用ふる器具、衣服、布片の類は凡て精良にて而かも清潔なるものを擇むべし又病室内の器物は亂雜にならざる樣つとむべし

◉諸種の遺傳病につきて

遺傳病中にて最も著明なるものは結核、癩病、梅毒、癲狂、癲癇「ヒステリイ」等となす然れども其

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大半は只斯くの如き疾病に罹り易き性質或は弱みて子孫に遺傳するものにして病氣を直に子孫に遺すとは甚だ希れなり

△梅毒　は醫學上にては其源因明かならずと雖も直接に人より人に傳染するは明なるとなり又其傳染の方法は多くは生殖器よりすると雖　稀れには身躰の他の場所よりするとあり又梅毒は其毒性を直に母体内の胎兒に傳ふるものにて之が爲に流産又は早産は梅毒の人に多し又　幸に充分なる日數を經て産出するも其小兒は生れながら梅毒に罹りをるものなり

△結核　は一種の慢性なる病にして肺、腸、腹膜、節等を犯すものにして充分なる治療を行ふときは輕快又は全快し得るものなるも大抵は病勢日々に加はり遂には衰弱虛脫して死を致すものなり原因は一種のこんま形の「バチルス」と云ふ細微なる虫の如きものにして若し肺臟又は氣道等に疾患あるとき此恐るべき小虫來り犯すときは遂に肺結核となるものなり故に平素氣道の病症即ち「氣管支カタル」に罹からざる樣注意せば肺結核を豫防するの一助となる者なり又「コンマバチルス」は肺病患者の喀痰中に在るが故に喀痰は直に昇汞水又は石炭酸水にて消毒し凡て肺病患者の口に觸るゝ者たとへば烟管、手拭食器の如きは務て充分に消毒すべし喀痰中の「バチルス」は直に空氣中に飛散するものにあらざるも若し食器等に附着せる喀痰乾燥して粉末となり空中に飛散するときは從て「バチルス」も又空氣中に浮遊す故に斯くの如き空氣を吸入すれば肺結核となるの恐あり結核は梅毒の如く

其病毒を直に子孫に傳ふるものにあらずして却て結核に罹り易き性質を子孫に遺すものなり故に結核患者の子孫は成るべく既に結核に罹れる父母と一家内に住居せざる樣注意すべし

△癩病　は日本には餘り珍らしき病氣にあらず故に古來男女良縁を撰むとき其娶べき婦女の一家或は嫁すべき男子の血統中に癩病に罹れる人ありや否やを探ぐるを例とせり古しへは癩病は梅毒の如く其病毒を子孫永遠に傳ふる者となせり然れども今日の醫學上にては此病症も又一種の「バチルス」による者にして人より人に傳染する者なり「ハワイ」の如き癩病の土地にては確に傳染したる例ありと云ふ然れども子孫に遺傳するとなしと云ふ證明は未だ無しがたきなり故に癩病は子孫に遺傳し又直に人より人に傳染する者なりとして豫防に注意すればあやまち無き者なり

△癲狂　癲癇、「ヒステリー」の如き病氣は同じ種類の者にして又多少の遺傳を成す者なり故に間々一家内又は血統中數人此種の病に罹るとあり斯の如き血統之人は生來の氣質多少通常の人と異なり平素日常の行爲偏執にて些少の事に感動し易く喜怒哀樂の情強き者なり若し不平なる事又は失望落膽すべきことに遇ふときは遂に癲狂となるものなり之子弟を監督する上に於て注意すべきとなり故に精神病血統の子弟は平素能く其性質を察し適宜の監督を成すべし

◎體質及び體格に付きて

女子は男子に比して通常筋骨軟弱にして体格も亦少なり尤も日本人の健康男女二十一才より廿五才

迄及び廿六才より卅才迄の平均の身長体重を左に列記す

廿一ヨリ廿五才迄	男、二、一三一人の平均	女、三六〇人の平均
身長	五尺二寸四分	四尺八寸三分
体重	十三貫九百目	十二貫二百目
胸廓の周圍	二尺七寸五分	二尺六寸四分
胸廓の前后徑	六寸一厘	五寸八分六厘
胸廓の横徑	八寸二分	七寸八分
腹圍	二尺三寸一分	二尺二寸五分

廿六才ヨリ卅才迄	男、三、七七二人の平均	女、三七四人の平均
身長	五尺三寸五分	四尺八寸五分
体重	十四貫	十二貫八百目
胸廓の周圍	二尺七寸九分	二尺六寸六分
胸廓の前后徑	六寸	五寸九分
胸廓の横徑	八寸三分	七寸九分
腹圍	二尺三寸六分	二尺二寸八分

男女の間に於て斯の如き体格の差異あるは自然の致す處なれとも又生活の有樣習慣等の異なれるによる者なり女子の体格は以上の如く男子に及はざるなり何となればたとへ体格は大なるも身体中の諸々の貴重なる臓器完全せざるときは却て病に罹り易き者なり之を以て人の病に罹り易きや否やを定むるは体格の大小によらずして体質の善悪にて判形す可き者なり体質の宜しきと前に云へるが如く身体中の種々の器械完備し身体の各部の發育相互につり合ひを保ち皮膚は滑かにて彈力を有し口唇舌色は充分に赤く筋肉は發育して肋骨の露出するが如きとなく腹部も亦適宜に膨隆するが如き者を云ふなり又全身非常に肥滿して日常坐臥に不自由なるが如きは之身体の脂肪多きが爲にして又完全なる体質と云ふを得ざるなり斯の如き人は若し熱病に罹りたるときは之に堪ゆる力弱き者にて容易く心臟痲痺を以て死を致すとあり故に平素酒類

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を嚴禁し一日に飲用する水分の量を减じ脂肪の多き食物を廢し務めて運動を成して脂肪の過分に增かせざる樣注意すべし

◎男女両性を來す特別の病氣に付きて

男子と女子とは各身体の組立を異にするが故に男子に多き病症と或は女子に多き病疾との別あり女子には生殖器の疾病即ち月經不順を初めとし娩產前后の諸病殊に產褥熱、子宮の腫物、乳癌、乳腺炎の如き者あり男子には生殖器病多く又男子は女子と異なり社會に立ちて世の艱難に處し心神を勞すること多くして酒類を飲用することも亦多きが故に精神病に罹ること多し其外男子は種々の危險なる場處に出入するが爲に外傷を蒙ること多し西洋の婦人は「コオルセット」を使用するが故に胆石と稱する病に罹ること多しと云ふ其他婦人には「バセドー」氏病多く男子には脚氣、糖尿病の如き者多し

◎年齡と疾病との關係

人生を分つて小兒期、少年期、壯年期及び老人期となす

小兒期に來る病は腸胃及氣管支病、百日咳、ヂフテリー」痳疹、猩紅熱等にして六七才以上を少年期と云ひ肺病「リウマチス」壯年期にては種々の傳染病、精神病、外傷に罹り易く老人に達すれば癌腫、腦出血等の如き者多し

◎職業習慣風俗により生ずる疾病

一定の職業は又一種の疾病を起す者あり音樂家は常に手指を使用するが故に手指の痙攣をなし電信技手も又同樣なる病疾を起す者あり又聲音を弄ぶ人は喉頭加答兒又は肺氣腫に罹り俳優は職業

する者は筆寫痙攣に罹ること多し日本の婦人は一定の職業をなす者の少なく多くは只家政に從事するが故に身体の運動少し故に腹胃の疾病多く或は便秘、頭痛、食欲欠亡の如きことあり日本人は習慣上入湯を好むが故に西洋人に比して皮膚の病少なし支那婦人は足を變形せしめ西洋婦人は口に文明を稱するも其行は誠に笑ふべき者にて只美貌を成さんが爲に失神をなすも尚其非を矯ることなく日常之を使用す之れが爲に肝臓病胆石、腸胃病「ヒステリー」を起すに至る又西洋人に難産の多きも又「コルセット」使用の爲なりと云ふ本邦人は「コルセット」使用する者は少なきも帶紐を用ひ人に由りては習慣上堅く絞搾するを喜ぶ人あり之が爲「コルセット」使用に類する疾病を起すことあり帶紐を堅く絞搾するは一種の習慣なるが故に豫め心を用ひかゝる習慣を生ぜざる樣務むべきなり

上常に白粉を用ゆるが故に鉛毒に悩み筆耕を業と

●咯痰令　北米合衆國バルチモール市廳に於ては咯痰令なる市令を發し猥りに所定の外の場所に咯痰するものは「一ドルラル」の罰金を課することゝなせり是れ不潔なるのみならず諸傳染病特に肺病を豫防するの目的なりといふ下にも述ぶるが如く結核の咯痰は塵芥に混じ空氣中に飛散して爲めに傳染の媒介を爲し其尤も恐るべきものなればなりされば唾吐きは可成一定の場所に各自備へ置たきものなり

●通俗衛生　大坂私立衛生會に於て題號の如き雜誌を發行せられたり卷首には名譽會員西村捨三氏の寫眞版を挿み長與、北里、西村、内海の名譽會員及現任菊池會頭の祝詞及緒方ドクトル、村井辻岡試驗所長の演説等あり總て通俗的に平假名を附したるは誠に衛生普及の目的に適したるものにして尤も有望有益の冊子と云ふべく本會へも寄送せられたり

●各種傳染病　赤痢　本年の赤痢は其病勢昨年より劇甚にして初發より本月十六日迄に既に患者總數五九、六八四死者一二、八七四を出し尚益々流行の模樣なれば臨時檢疫局にては全國を八區に分割して各區に檢疫官を派出して大に豫防消毒の道を勵行すべしといふこの事なるが尚腸窒扶斯も又流行の兆ありといふ

◎食物消化時間

左に掲ぐる消化時間表は二十年間二百五十人の醫師が二十年間實地研究調査したる結果なり大日本私立衛生雜誌に記載しありたるものを茲に轉載す

	(消化時間)時 分		(消化時間)時 分
米飯	一、〇〇	生菓	二、四五
莢豌豆	一、三〇	米粉	一、四〇
芋	一、一〇	甘薯	二、三〇
麵包	一、四〇	葱	一、二〇
生魚	一、〇五	栗	二、三〇
芹	二、一〇	干魚	四、〇〇
大豆	二、〇〇	小蓮根	二、二〇
塩漬魚	一〇、〇〇	小豆	三、〇〇
佛手柑	一、〇三	煮海老	七、〇〇
青菜	二、〇〇	白瓜	二、一〇
鯛	三、〇〇	鯰	三、一五
蛸	五、〇〇	野菜	二、三〇
小鳥	二、一五	豆腐	一、〇〇
大根	一、五〇	水鳥	二、二〇
梨	一、三〇	筍	五、一〇
生卵	二、三〇	柿	一、五〇
荳	二、三〇	鷄	四、〇〇
串柿	二、〇五	三葉	一、〇五
熟卵	三、〇〇	桃	一、三〇
百合	二、〇五	燒牛肉	三、一〇
林檎	一、五〇	蔬菜	二、〇〇
煮卵	三、三〇	南瓜	二、一五
蕪菜	二、一〇	鯖	二、一五
胡瓜	一、一五		

◎助産婦經驗談

新潟支會講師なる產科院長高橋辰五郎氏には日本助產婦の改良進步を圖らんが爲めに每月助產婦新報を發刊し本會へも每月數部宛寄送せらる今第七號を一讀するに獨逸國助產婦の四十年間に於ける實驗談を載す頗る有益にもあり供味あるを以て茲

に轉載す

○獨逸國シェーナウ助産婦會員助産婦エルチスチーチ、グバウエル婦人の職業四十年間に於ける演說

(前略)余は醫師を迎へしこと百回にして內ち産蓐及び小兒の死せしもの十七名あり其

第一、婦人エフ醫師及び余は貧血の爲めに招かれたるも二時間の後死亡せり死後帝王切開術によりて分娩せしむ

第二、未婚の産蓐婦某獨居しありしが劇しく窓を撲ちし者あるが爲めに其女兒吃驚し而して分娩後三月にして腦膜炎に依て死せり

第三、婦人エル自ら分娩せしが余の至れるときは出血の爲めに漂ふが如きを見たり其後下痢を出し醫療を施こせしも衰弱に依て斃る

第四、婦人エス双胎を分娩せり醫師の治療を受けしが産蓐熱に依て死せり

第五、婦人エム双胎の分娩第五日にして耳後に疼痛を發し醫師は之れに頸部の塗布藥を與へしが患婦は布の爲めに火燒して死亡せり

第六、婦人カー分娩後四日にして起立し寒き室內に於て感冒し惡寒戰慄を發せり醫師は氷罨法を施こせしが一二日にして死亡せり

第七、婦人エル産後第二日にして惡寒戰慄を發し腹膜炎によりて死亡せり

第八、婦人ベー醫治によりて分娩せしが多量の血液を失ひ小兒は死亡せり小兒の葬禮に當り婦人は次室に至り器具を取出せしが惡寒戰慄を發し遂に死亡せり

第九、未婚の産蓐婦分娩後直ちに死亡せり分娩の

際醫師は挽出を施こせしに子宮は翻轉し胎盤は帽の如く小兒の頭上に附着し且つ子宮粘膜に癒着せり上項皆に述ふる所のもの之れなり

第十、婦人ゲー自ら分娩せしが余の至れるときは已に死亡し出血の非常に多量なるを見たり醫師を招きたるも只死の証明をなすのみなりき

第十一、婦人カー双胎分娩、妊娠中高度の水腫を患ひ余が勸むるに係らず醫治を求めざりき第一兒は陣痛を現はさずして分娩し余が到着して未た内檢査を施こすの時間なく而して第一横位を取れるが爲めに婦人を少しく側方に臥せしめたるに死に歸せり醫師は死後に來着せり

第十二、婦人ウエー双胎分娩胎盤は全く癒着せるも分娩中には一滴も出血せざりしも婦人は蠟樣蒼白色となり第二兒の分娩後直ちに死亡せり

第十三、婦人ツエット伏して轉倒し早産を營なみ爾後直ちに一脚に疼痛を訴へ醫師を迎ふるに至れり患婦は熱を發せざるも心悸亢進し一二分時にして死亡せり

第十四、婦人エル産蓐熱に依て死亡す

第十五、婦人ベー同しく産蓐熱に依て死亡す

第十六、婦人テー分娩前より痙攣を發し死亡す死後醫治によりて分娩せしむ

余は四十年間に種々なる醫師と處治を共にし多くの經驗見聞をなせるが故に説話す可きもの多く有之と雖とも老年に至れるが爲めに多くの事項は已に忘失に歸せり

以上述ふる所は諸姉皆な之れを聞かん然れとも此種の經驗に伴ふ所の困難及び苦辛は之れを感せさる可し蓋し産婆術なるものは其勞多きものなり(刪)

は必ず之れに報ゆることある可し余は困難に際し屢々神明の補助を請へり云々

●肺結核

同病は社會上操業上最も有爲なる壯年者に死亡多く國民の元氣を枯らすものは此病なり獨逸の統計によるに結核の死亡數は千分の二三、八に當る然して胃腸加答兒は初生兒を害すること多く肺炎は幼兒より高老に亘り略々平均に發生する病ひなれと肺病は壯年血氣の人体を犯す

虎列剌、實布的里亞、窒扶斯の如き傳染病は其勢ひ急迅なるが爲めに世人の注意を引き起すこと多き肺結核は急劇ならず徐々として陰險手段を以て襲ひ來るが故に其尤も恐るべきものなり

●傳染病の徑路　肺病傳染の經路は第一呼吸道より感染することにして病者の咯痰中に存する桿菌は乾燥の後他の塵埃と共に空氣中に飛散して遂に呼吸氣道に感染するとこ(第一)は其病勢急劇ならざるが爲に病者の漫りに痰沫を各處に吐出するにあり結核病者に富める都會の空氣は危險の如しと雖へとも之れ實際恐るべきものに非ずして流動せる空氣日光作用等によりてよく感染の効力を失はしむるものなり然れども戸障子等を閉鎖せる室内の空氣は尤も恐るべき傳染の原因となるを常とす故に肺患者の咯痰は最も愼重に注意して乾燥の後塵芥に混じ空氣中に飛揚せざる樣心掛ること緊要なり

又傳染の媒介としては飲食物殊に結核に罹れる牛の乳汁より感染すること頗る多し牛畜は尤も結核に罹り易きものなることを忘るべからず結核家畜の肉は乳汁の如く甚しからずと雖も是亦大に注

意すべき要件なりとす尚傳染の媒介は咯痰を嘗めたる蠅なりとす又皮膚の創の面より竄入して感染することは極めて稀なり其他遺傳により發生することなれども遺傳の事に就ては未決の問題なりとす

●豫防法　肺病の初起は醫師も判定に苦しむものなれば世人をして充分に虎列剌、窒扶斯、赤痢の如く危險恐るへきことを知らしむること及各自の身躰を强壯にして肺病に罹り易き素因を除き去り躰育の奬勵と廉價にして滋養ある食餌を撰むことゝ猥褻なる著書新聞等の禁止牛乳及肉類等結核の恐れあるものは充分に注意して可成患者に接近せさる樣になし豫防すること尤も緊要なりとす

◉小兒の泣聲

小兒の泣くは我れ／＼の言語を發して其要求を滿たすと一般なれば世の親たるものはよく小兒の泣聲に注意して小兒の意を滿足せしむることそ緊要なれ故に小兒の泣くは或は饑餓を訴ふるとあり大小便に衣服の濕りたるが爲め不快を感して泣くとあり或は帶紐等の堅くして腹の痛ことあり又は母親の不注意によりて針などの身躰に觸るゝが爲めに泣くの例し又少からすされば其泣聲によりて病苦の有無等を判斷して其意を滿すことを勤むべし胃病若くは腹痛の爲めにする小兒の啼き聲は其聲大にして長く强しくして淚を流し兩足は屈めて胃部まで擧げ其緩むに從ひ足を伸し啜り泣きして終に眠に就くものなり

○胸のいたみ若しくは肺の焮衝、氣管支、肋膜等の兆候あるものは其聲低く屢々泣きやみて永くは紿かずして淚を出すこと稀なるものなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○腦膜炎等頭部の病あるものは其啼き聲急劇にして恰も夢物に驚きたるもの丶如くして又時々うつ〱と眠るも又忽ちにして醒め烈しく啼泣するものにして顏色の蒼白となり若くは紅かくなり容易に眠らず眠るも忽ちにして醒むるものにして乳を吐く樣になりては充分の注意を爲し早く醫師の診察を受けされは危險尤も甚だしといふへし

○小兒の小鼻をピク〱と動かし兩足を屈めて腹部に舉るは多くは腹痛に苦しむものなることを知るべし

○又小兒の乳を飲むによく飲み付かずして屢々啼泣するものは口中のただれたるが爲め快よく吸乳すること能はざるが故なり此場合にはよく口中を驗して舌などの白く乳滓の付着せるあらば速かに溥き重炭酸曹達の液若くは白湯にて屢々清拭するを要す等閑になし置くときは爲めに容易に治癒せさるに至るべし

◉果實と僂麻質斯其他の諸病

今大日本私立衛生雜誌より轉載せんに果實を喫して諸病に効あることは近來普ねく醫家の唱導するところにして其故は其含むところの酸性が血液中に浸入して其有害なるもの丶結合を破り且腎臟をして是等のものを排泄するの動作を敏活ならしむるに基くと云り斯くの如くなるを以て果實を食することは僂麻質斯、痛風、石淋等の諸病に効力を與ふること疑ふべからず

ハイ氏の觀察に依れは神經衰弱症に對する尿酸の關係は大に果實の効用を認むへきものありといふ何となれは神經衰弱症なるものは身躰の不用有害物が尿酸の形に於て或る部分に聚積したる結果

なるを以て人若し自由に果實を食する時は此種のものを身躰外に驅逐するの動きを爲し且腎臓をして是等のものを排出するの力を增加せしむるものなり

ボーチャード氏の言に曰く僂麻質斯病は實に一種の毒血症にして其原因は張開せる又は弛脱せる胃中に在て食物の腐敗せるに由るものなり故に果實は之れを食して此疾病を豫防するの補助たるべしと斯くの如く果實の効用に對しては醫家殆んど一般之を認むるもの丶如し而して僂麻質斯病に對する効用は尚ほ一言を加ふれば其能く營養管中に毒分の發生を防遏するの効ありと見ば可ならん元來此疾病の如き或は身躰を肥滿ならしむる處の疾病には果實最も其効あるものなり果實は主として水分より成り立ち其含むところの滋養分は其種類により五「プロセント」より八「プロセント」若しくは十「プロセント」なり其中最も多く滋養分を含有するものは乾燥せる果實にして乾葡萄、夏枯草菓、波斯棗等とす果實の液を含むものは諸種の熱病に最も適當なる食にして其治療の効甚だ大なり云々と同雜誌に見へたり

但し果實は多く生食すること多きが爲めに多食すれば腸胃を害すと雖も少量適宜に食すれば消化力を增し食慾を調和ならしむる益あり西洋にては食事の後は必ず何か果物を食ふを常とせるが第一林檎、蜜柑、佛手柑、ざぼんすぐり、梅、葡萄、櫻らん坊第二、無花果、ばなし、柵棗、いちご、第三桃梨、林檎、葡萄等尤も世間に賞美さる丶者なり然れども傳染病流行の際には頗る注意せざれば赤痢等の媒介を爲すと又迷かれば注意頗る緊要ありとす

廣告

◉入會者

○宮地駒猪子の紹介に依り
大日本赤十字社病院内　松田さめ子
仝　片岡ふじ子
仝　和田清子
仝　山端靜惠子
仝　渡邊喜惠子

○事務所へ申込に依り
神田區錦町一丁目十九番地木田方　內山松榮子
栃木縣下都賀縣栃木町　白澤彌與司子
神奈川縣愛甲郡愛川村字半原　宇野奈加子

◉移轉者

三重縣日本赤十字社支部看護婦養成所へ　川村もと子
牛込區若宮町十一番地へ　豊島清子
神田區駿河臺袋町七番地へ　新井琴子
芝區櫻川町十二番地岸方へ　坂井すみ子
麻布區本村町百七十四番地へ　岡崎きよ子
京橋西紺屋町八番地へ　高瀨市枝子
廣島市段原村四十六番地へ　早川倉子
出雲國松枝市内中原百三十二番地へ　河村幸子
京橋區築地三丁目十五番地へ　圓師さよ子
岡山縣維屋郡數町三百五十五番邸へ　山川春二君
福島縣安達郡二本松町本町へ　丹野よし子
本所區石原町九十三番地へ　宇敷かつ子
芝區西久保廣町四十三番地へ　澤とよ子

九月　大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則摘要

一凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり

一會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

一本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中女生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

一男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

一本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

一毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

一會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

一講義演説の際男子の傍聽を禁ずと雖も會員に縁故ある男子は此限にあらず

一會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

一會費は郵便小爲替にて東京神田佐久間町郵便取扱所へ向け振出しある可し

但不得止塲合には郵便劵を代用するも妨けな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

し尤も一割増とす

一入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふべし

一毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し

一至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得

一各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

一本會の集會場は時々報知する者とす

一會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らされは受領證は送付せざるものとす

東京下谷區練塀町四十三番地

私立 大日本婦人衛生會

生義ドクトル伊澤先生ニ就キ新式醫術實習候處今般實姉齒科醫高橋コウ子ノ治術處ニ於テ齒科諸般ノ診察ニ從事致候

●診察毎日 午前九時ヨリ 午後五時マデ

齒科醫 高橋虎一

東京日本橋區本町二丁目十二番地

本誌廣告料

廿二字詰一行一回	金十錢
半頁全	金一圓五十錢
一頁全	金三圓
總て前金の事	

明治三十一年九月十八日印刷
明治三十一年九月二十日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎

印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行
（定價金拾錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN